

# 乗雲

寺報  
第97号

H29.5.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県  
胎内市西栄町 2-8  
TEL0254-43-2419  
FAX0254-43-4560  
広厳寺  
住職 神田英俊

メール  
otera@kogonji.jp

だいさいげだつぶく  
大哉解脱服 無相福田衣

ひぶによらいきよう  
披奉如来教 広度諸衆生

この偈は僧侶がお袈裟を身に付けるときにお唱えする袈裟頂戴の偈です。曹洞宗の開祖道元禪師さまはその著書『正法眼蔵伝衣の巻』に「予、在宋のそのかみ、長連床に功夫せしとき、斉肩の隣単をみるに、毎曉の開静のとき袈裟をささげて頂上に安置し、合掌恭敬して一偈を黙誦す。ときに、予、未曾見のおもひをなし、歓喜みにあまり感涙ひそかにおちて衣襟をうるほす」と示されました。

道元さまは中国での修行の折、隣の僧がお袈裟を頭上にのせてこの偈を唱えていることに深く感激しています。日本ではお目に掛かったことのない光景に、涙が

流れてしかたなかったと述べられています。

私とお袈裟のご縁は永平寺修行僧の指導監督にあたる、檜崎一光老師の見事な立ち居振る舞い一挙手一投足、これは老師の修行力によるものでありましたが、



あの時の感動は今でも目に焼きついています。老師は、『伝衣の

巻』『袈裟功德の巻』をそのまま実践されているお方でした。

「小三衣（お袈裟のお守り）」を常に拝持し、お内仏に祀り、朝課後の看経はお袈裟に礼拝なされておられました。『袈裟は是れ釈迦牟尼仏皮肉骨髓也』その言葉の如くお袈裟の信仰丁寧な扱いには深い感銘を受けました。提唱に於いても「お袈裟は解脱服、これを身に付けることにより、いろいろな修行の迷いから解脱することができ仏道を成就することになる。諸仏成道のとき必ず袈裟を著す、しるべし最尊最上の功德なり」と説示されました。老師の説く、『仏祖正伝の袈裟』（お釈迦様から伝わった真のお袈裟）とは、これがお袈裟参究の始まりとなりました。

その後、相円寺・宗像義法、久昌寺・中野睦宗、東龍寺・渡邊宣昭各老師と共に四国新居浜の瑞應寺様へ拝登し、新潟でぜひとも受衣作法式をして頂きました。その拝請にお伺いしました。その式には当寺より母、井上雄策夫妻、福田会の皆様、(p2へ)

## 平成二十九年年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成二十八年
三回忌	平成二十七年
七回忌	平成二十三年
十三回忌	平成十七年
十七回忌	平成十三年
二十三回忌	平成七年
二十七回忌	平成三年
三十三回忌	昭和六十年
五十回忌	昭和四十三年
百回忌	大正七年

▼今年(平成二十九年)の年回忌表です。正当の各家には昨年十一月に通知しています。  
▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。